

ビオトープだより第24号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. ビオトープアドバイザー認定試験研修会報告

本部事務局

第40回ビオトープアドバイザー（BA）認定試験研修会・仙台〈新規、更新・スキルアップ研修会〉

- ・月日：2022年11月24日（木）・25日（金）（・26日（土）見学会は自由参加）
- ・場所：東北大学青葉山新キャンパス 見学：地底の森ミュージアムビオトープ
- ・講師：鈴木邦雄先生（横浜国立大学名誉教授・元学長、協会代表顧問）、平塚明先生（岩手県立大学名誉教授、協会顧問）、野澤日出夫（協会副会長）、佐川憲一（協会監事）、佐竹一秀（協会北海道東北地区長）
- ・受講者：新規21名、更新3名

特定非営利活動法人日本ビオトープ協会では、協会が認定する「ビオトープアドバイザー」資格取得のため、毎年全国で認定試験研修会を行っています。

第40回は仙台での開催を決定し計画いたしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020・2021年度は中止し延期、今回3度目の正直で開催することができました。お待ちいただきました受講者の皆様、講師・関係者の皆様には、ご迷惑をおかけし恐れ入り、ご協力いただき誠にありがとうございました。

おかげさまで、充実した内容で開催し、無事に終了いたしました。

BAは累計888名となりました。皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



基礎講座 第1・2講 鈴木邦雄先生



基礎講座 第3・4講 平塚明先生



東北大学大学院 環境科学研究科 環境研究推進センター 大庭雅寛先生より
東北大学青葉山新キャンパス、環境配慮型の建物について説明いただきました



2日目ピオトープの計画づくり・発表の様子
班ごとに活発な意見交換を行い、作成、発表



3日目 地底の森ミュージアム見学会(自由参加)
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場の
平塚様、長田様、井上様に案内、説明いただきました



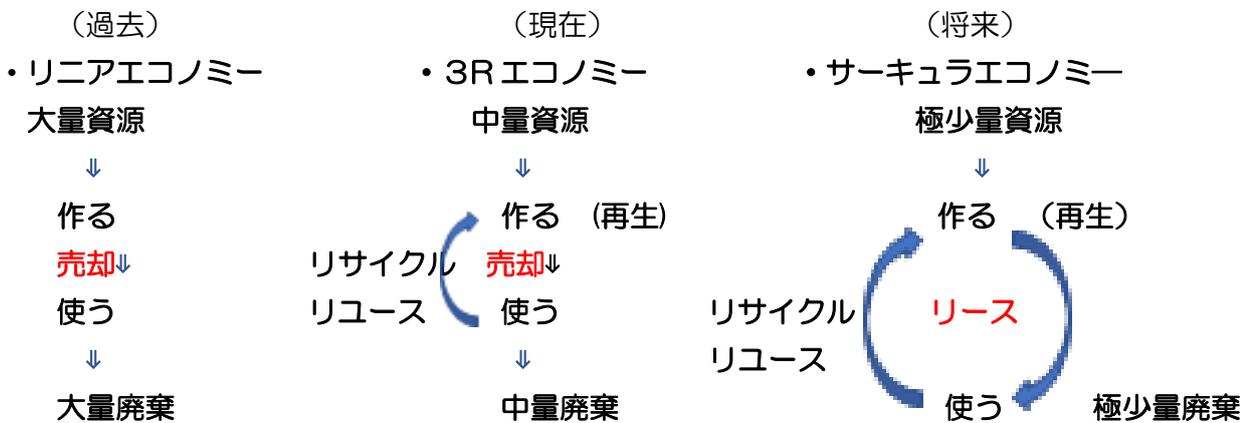
2. “サーキュラーエコノミー”の時代に… 副会長・主席 BA 野澤 日出夫

“サーキュラーエコノミー”の時代に…《今の経済優先から、持続できる経済へ》

目先の経済を優先して来た“先進国”（このキーワードは好きではない）は、大量生産・大量消費によって経済的豊かさを得る事に邁進して来ました。この事は世界を大きく二分して貧富の差を益々大きくしながらも自国経済優先は今も続いています。

社会リスク特に貧困国と言われる国々では急激に人口は増加し、地球規模では僅か50年で2倍以上となり、食糧はじめ、水・鉱物・化石燃料・木質などあらゆる資源は不足・枯渇の方向に加速されています。その様な中で世代を繋いで将来にわたり“心地よく豊かで幸福な社会”の為の資源を廃棄しない長期経済バランスは必須となります。

《リニアからサーキュラエコノミーへ》



日本では、消費材は十二分に行き渡っています。その完全なリサイクルが達成できれば新たな資源を国外から導入する必要は無くなります。その為には消費者は購入せずに製造メーカーからリースを受ける事で新たな商品と交換して、消費者が勝手に廃棄せずに完全リサイクルが達成されます。

《世界はサーキュラエコノミーへ動き出した》

オランダ「アムステルダム市2050プラン」は、大規模なサーキュラーエコノミー街として、世界初のビジネスモデルとなっています。

オランダ・スキポール空港ターミナルの照明設備は全てフィリップ社製のサーキュラエコノミー事業でのリース、フィリップ社は2020年に全ての製品をサーキュラエコノミー事業として、全て廃棄される事なく回収され再利用されます。この事で資源ロスがなく従来事業より15%増益となったという。

オランダのエシカルなスマホ「フェアフォン」 (近年失われた修理する権利・修理せず廃棄から脱却)

フェアフォンはモジュール式で設計されているため、もし壊れた場合は、ディスプレイやバッテリー、カメラなど該当するパーツだけを買って替えばいいので、誰でも簡単に修理できます。これにより、製品を長く使い続けることができ、E-waste（電子製品の廃棄物）やCO2の削減につながります。

我々のピオトップ事業においても、剪定枝・刈り草などを堆肥化して植栽工事に還元するなど、出来る事からサーキュラエコノミーを実践しましょう。